



PRESS RELEASE

2023 年 10 月 30 日

株式会社オギノ

オギノ、「CAN to CAN」水平リサイクルを開始

クリエート・アルテミラグループと協働し、アルミ缶の資源循環を促進

株式会社オギノ(本社:山梨県甲府市、代表取締役社長:荻野 寛二、以下「オギノ」)は、株式会社クリエート(本社:山梨県甲府市、代表取締役社長:望月 満、以下「クリエート」)、アルテミラ製缶株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:中塚 晃章、以下「アルテミラ製缶」)、アルテミラ・テクノソリューションズ株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:中山 晴隆、以下「アルテミラ・テクノソリューションズ」)、MAアルミニウム株式会社(本社:静岡県裾野市、代表取締役社長:島村 敏行、以下「MAアルミニウム」)と協働し、オギノ各店舗のリサイクルステーションにて回収したアルミ缶を新たなアルミ缶に生まれ変わらせる「CANtoCAN」水平リサイクルを、2023 年 11 月 1 日(水)より開始します。

オギノは、山梨県、長野県、静岡県に食品、住居関連品、衣料品を販売するスーパーマーケット、衣料専門店を合わせて全 46 店舗展開しています。オギノは、循環型社会の構築を目指し、SDGs の考え方を取り入れ CSR 活動に取り組んでいます。その一つとして、SDGs が掲げる目標 12「つくる責任つかう責任」、目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」などを意識し、食品トレイや牛乳パック、ペットボトル、缶、古紙の店頭リサイクルに注力しています。2019 年以降は、古着や布団、段ボールの回収も行っています。

オギノの店頭リサイクルは約 20 年前から実施しており、2022 年度のアルミ缶の回収量は約 143,000kg で、アルミ缶約 890 万本分に相当します。CO₂ 排出量の削減量は約 870トン^{※1}で、これは杉の木約 62,000 本分、杉の木の森林面積に換算すると東京ドーム約 8 個分の年間 CO₂ 吸収量に相当^{※2}します。これまでに回収したアルミ缶は、鉄製品の原料として再資源化されてきました。今回の取り組みで、お客様のご協力により集められたアルミ缶の約 8 割がアルテミラグループ施設にてアルミ缶に水平リサイクルされます。水平リサイクルとは、同一種類の製品に生まれ変わらせることで、資源をくり返し循環させられることが利点です。残りの 2 割は、鉄製品の原料としてリサイクルされます。

※1 CO₂ 排出量の削減量は、環境省「3R 行動見える化ツール」より当社にて算出した目安値

※2 杉の木の木数・森林面積、東京ドーム面積は、当社にて算出した目安値

クリエートは、山梨県甲府市に本社をおく産業廃棄物・一般廃棄物処分業者です。創業以来、

産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬事業を営んでまいりました。2022年には、山梨県笛吹市にリサイクルセンターを開所し、缶類・ビン類・プラスチック類など、資源循環型社会への対応として多種多様な回収・中間処理を行っています。

アルテミラグループは、「アルミの技術で夢のアルミライを®️」というアルテミラグループのパーパスに基づき、使用済み飲料用アルミ缶の回収事業を1975年からスタートし、再生地金の製造から製缶までを一貫して行う独自のリサイクルシステムを2001年から構築しています。

オギノは、「食・住・衣を通じて、変化するお客様の日常生活を絶え間なく支え、創造し、豊かにする」を企業使命とし、今後も地域社会を支える小売業として、お客様やお取引先様と一体となって環境に配慮した活動を推進してまいります。

■画像

《オギノ リサイクルステーション》



《クリエート アルミ缶の中間処理》



《アルテミラグループ CANtoCAN フロー》



以上